



学校だより

学校教育目標

夢をもち たくましく 挑戦する児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第2号

令和4年4月14日発行

文責 校長 淵上 純

令和4年度 加唐小学校 入学式 4/8(金)

4月8日(金)入学式を挙行し、新小学1年生を2名迎えて小学生7名、中学生1名、計8名の児童生徒数となりました。うららかな春の日射しを浴びて新緑が輝く中の式でした。

式辞では新入生のお二人の名前を一人一人呼んだところ、二人とも「はい」という元気な返事が返ってきて、とても頼もしく感じました。また、加唐小中学校の伝統である「永遠(とわ)のめあて」「つ」「ば」「き」(つよいからだ、ばりばり勉強、きちんとあいさつ)を達成できるようにお願いしました。

在校生代表の「歓迎の言葉」では、「分からないことがあれば、いつでも何でも聞きにきてください。体育大会や文化祭などの行事をみんなで力を合わせて頑張りましょう。」と励ましの言葉をおくりました。



これを受けて、新入生の言葉では、それぞれ、「べんきょうととびばこをがんばります。」「たいくとべんきょうをがんばります。」と元気よく立派な態度で、目標を発表してくれました。

加唐小中学校のお兄さんお姉さん同様に、郷土を愛し、授業や様々な活動に主体的に臨んでほしいと思います。そして、一人一人が自律した行動ができるようになり、他の人たちと協働して様々な課題に取り組むことができる人間に成長してほしいと思います。

北方領土に関する中学生スピーチコンテスト 4/9(土)佐賀新聞

面悠伽さんが第1位に当たる北方対策担当大臣賞を受賞

昨年度に学校だよりでお伝えされていましたが、4/9(土)佐賀新聞に報道されていたので紹介いたします。

本校、中学3年生の面悠伽さんが全国第1位に当たる北方対策担当大臣賞を受賞しました。最終選考会では、曾祖父の戦争体験と領土問題を重ね合わせ、旧島民とロシア人住民の双方が納得

する解決策が必要だと訴えたことや文化祭で北方領土をテーマにした演劇を行うなど具体的な取り組みを進めている点が高く評価されたようです。すべての人々の心に響く内容です。お時間があれば一度ご覧になってください。



(右のQRコードをスマホ等で読み取っていただければご覧になれます。)

加唐小中学校 HP <https://www.education.saga.jp/hp/kakara-j/>

西さん(加唐中3年)1位、中島さん(北茂安中身)3位

「北方領土」正しく理解、次世代に

県内 2021年度に実施された北方領土に関する中学生の全国コンテストで、唐津市の加唐中3年の西悠伽さん(14)が1位に当たる北方対策担当大臣賞を佐賀県勢で初めて受賞した。みやき町の当時北茂安中3年の中島琴美さん(15)は現・三養基高1年では3位の北方領土問題対策協会理事長賞に輝いた。

全国中学生スピーチ

西さんは20年度の全国コンテストでも2位の内閣府北方対策本部審議員賞を受賞した。生まれ育った離島の加唐島と北方領土の暮らしを重ね合わせ、元島民や現地のロシア人の境遇に思いをはせた。

今回は「つながる思い、つながる思い」と題し、領

土高題について「昔のことではなく今も続く現実。私にできることは問題を正しく理解し、次の世代につなげていくこと」と語りかけた。小学生に領土問題について教えたり、加唐島の文化祭で自身が台本を書いた劇を披露したりした取り組みを紹介し、共生の重要性

を呼びかけた。

中島さんは「いつか四島の空気を吸えるように」と題してスピーチした。領土問題の解決には「広く認識を、正しい知識を、ちゃんとした意識を、この『3識』が重要と考えた」と語り、日本とロシアが互いに認め合い、歩み寄る大切さを訴えた。

佐賀市の県議会棟で3月30日に表彰伝達式があり、北方領土返還要求運動県民会議会長を務める藤木卓一郎県議会議長が2人に賞状を手渡した。ロシアによるウクライナ侵攻で揺れ動く世界情勢も踏まえ、西さんは「世界で起きていることを知り、できる限り行動していきたい」、中島さんは「将来は海外で学び、外交官の仕事に就きたい」と話した。

全国コンテストは北方領土問題対策協会が主催。3月の最終選考に西さんや中島さんら10人が進み、あらかじめ撮影したスピーチの動画で審査された。全国からの応募総数は6184作品だった。(巴田浩一)



北方領土に関する全国スピーチコンテストで北方対策担当大臣賞の西悠伽さん(左)と北方領土問題対策協会理事長賞の中島琴美さん(右)。佐賀県唐津市の加唐中3年生。